

# 「健康はお口から！笑顔あふれるまちづくり」

## —歯磨きの仕上げはいつもベロタッチ—



熊本市中央区役所 保健子ども課

吉良 直子 (きら なおこ)

1981年 九州歯科大学卒業  
1982年～1986年 九州大学予防歯科講座研修生  
1981年 第2口腔外科入局 退職  
1983年 熊本市役所入庁  
2012年～現職 (中央区役所保健子ども課 課長補佐)

### <ライセンス>

2004年 統計官取得  
2010年 日本公衆衛生学会認定専門家取得

### <賞罰>

2010年 日本公衆衛生学会会長表彰受賞  
2013年 公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰受賞

### <在籍学会>

日本公衆衛生学会  
日本老年歯科医学会  
日本小児歯科学会  
日本口腔衛生学会  
日本小児保健協会

### <市民活動>

- ①歯っぴーかむカムひごまる協議会 (口の健康づくりから笑顔溢れるまちづくりを目指す市民団体) 副会長
- ②全国保団連 理事
- ③熊本県保険医協会 理事
- ④ふれあいの会アルモンデ (自然とのふれあいからバリアフリーを目指す市民団体 療法的園芸の推進) 副会長
- ⑤オハイエくまもと (障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しむ市民団体) 運営委員
- ⑥くまもと禁煙推進フォーラム 会員

### <ライフワーク>

- ①障がい者にとっても健常者にとっても熊本が暮らしやすいまになるよう、人と人、団体と団体をつなぐこと
- ②いつまでも美味しく食べること、口の中からの子育ての支援

### <家族>

夫1名、独立した子ども2名

## くまもとメソッド ベロタッチについて ～口の中から子育て支援～

熊本市中央区では、子育て支援の一環として、1歳6か月児の歯科健康診査時に歯磨きとあわせて舌を刺激する「ベロタッチ」の指導をしています。

この方法は頭やほっぺを優しく触り、マザータンで話かけながら行うくまもとメソッドの中核をなすもので、舌尖と両側を刺激し、接触刺激と圧刺激を利用して舌の発達を促す効果があります。

平成19年から障がいを持つ子どもや発達に不安を持つ子ども達を対象に、保護者と協力して開発しました。従来からあった口腔内の刺激方法を、簡単に判りやすいものに整理し、負担感が少なく、継続できるように工夫したものです。「ベロタッチ」という可愛い名称がついて、お母さん方の受け入れもよくなったように思います。ベロタッチはむせの改善や発語に大きな効果があります。症例は70例ほどですが、開始年齢や疾病に係わらず効果があることから、臨界期のない脊髄反射の一つではないかと考えています。障がい児では、口腔の過敏の脱感作になっています。涎や口唇閉鎖の改善が得られた場合、風邪などの呼吸器感染症の防止に、発語に繋がった場合、自傷行為や乱暴の減少などの改善がみられます。

ベロタッチは簡単に副作用がないことから、当時の所長判断で平成22年度より幼児歯科健診にも応用するようになりました。健常児の中にも極端な偏食や丸呑み、発語の遅れなどに不安を持つお母さんがいて「ベロタッチのことを聞いてよかった」と喜んでくれます。食べることや話すことを通じた子育て支援に歯科関係者が係わることの大切さを感じています。現在、熊大医学部の発達小児科や熊本保健科学大学、福岡歯科大学小児歯科と連携を取りながら、ベロタッチの検証と地域への普及を図っています。子どもの変化を報告するお母さん方の笑顔や子ども達の表情をお伝えしたいと思います。この機会にベロタッチを知っていただき、地域に広がることを願っています。